

講義名	研究演習Ⅱ				
講義コード	55410	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 金曜日 5時限
担当教員	上瀧 真生			サンパリング・コード	SEN350

学部・学科	演習分野
経済学部 経済学科・経済情報学科	上瀧真生ゼミナール(社会保障論)

概要説明 (1) テーマは「キャリアの展開と社会保障」。キャリアという言葉は、最近では職業人生を意味する言葉として使われることが多い。けれども、ここでは広く人生の展開を意味するものとして考えたい。その焦点は、たしかに一つには職業人生である。しかし、もう一つ、重要な焦点がある。それは家族の形成だ。職業人生と家族の形成。この二つを中心に置きながら、現代日本社会におけるキャリアの展開を考え、さらにそれを支える社会保障のあり方を考えるのがこのゼミナールのテーマだ。 職業人生と家族の形成を二つの柱としたキャリアの展開は、これから皆さんが直面する課題だ。皆さんはなんとなく両親をはじめとした身近な大人をモデルにこの問題を考えているかもしれない。けれども、20世紀末以降、日本社会におけるキャリア展開のあり方は大きく変化しているようにみえる。就職活動における「氷河期」と「売り手市場」化とのブレ、転職の増大、晩婚化・非婚化、少子化、等々。変化を感じさせる諸現象が新聞紙上、テレビのニュースでおどっている。このゼミナールでは、こうした諸現象の実態、背景・要因、これに対応するための社会保障のあり方などについて皆さんと一緒に考えていきたい。このことは、皆さんが自分のキャリアを構想するうえでもプラスになると思う。 なお、この問題にアプローチするにあたって、文献資料をもとに考えるだけでなく、インタビュー等をつうじて、できるだけ実際のキャリア展開の経験をもとに考えるようにしたい。 (2) ゼミナールのステップ ①研究演習Ⅰ（2回生後期） テキストの検討を中心にして、現代日本のキャリア展開についての見通し、さらには考えるべき問題や考える方法について学ぶ。同時に、資料の調査や発表、議論の仕方など、ゼミナールのための基本的な技術を身につける。また、新聞を読む習慣を身につける。2回生終了時にレポートを作成し、半年間で学んだことを振り返る。 ②研究演習Ⅱ（3回生） 前期はテキストの検討を続けるとともに、流通科学大学の先輩や身近な人生の先輩のキャリア展開についてインタビュー調査し、その結果をもとに現代日本におけるキャリア展開の実態とそれに対応する社会保障のありかたについて考える。また、これまでの学習をふまえて、各自、卒業研究のテーマを決定する。後期は、各自テーマに沿って研究を進め、その進展状況を報告する。3回生終了時に卒業研究の第一次草稿（3回生レポート）を提出する。 ③卒業研究（4回生） 3回生時の第一次草稿をもとに卒業研究をしあげる。進路相談も実施。 (3) テキスト ゼミ生が確定した後に決定する。現在の3回生が検討したのは以下の文献。 中西新太郎監修 『フツーを生きぬく進路術 17歳編』青木書店、2005年 中西新太郎監修 『フツーをつくる仕事・生活術 28歳編』青木書店、2007年
--

主な卒業論文のタイトル 「『聖地巡礼』が起こす経済効果」 「学生アルバイトの実態 流通科学大学と全国調査の比較」 「介護職の現状と今後について」 「児童虐待について」 「過勤とは何か」 「睡眠について」 「ゲームが見せる社会現象と影響力」 「外国人留学生の就職率引上げのために」 「ジェンダー問題と共に歩む男性像」 「ユーチューバーについて」 「コロナ禍の60TOトラベルによる経済への影響」 「エリートビジネスマンはなぜ筋トレをしている人が多いか」 「子どもの貧困の現状」 「大の年金制度の将来性」 「日本の食品ロス問題について」 「日本の食文化は欧米化したのか？」 「日本における外国人労働者を取り巻く環境と問題」

教員よりの要望 ◇毎日、新聞を読むこと。世の中の動きを知っていることは、これからの人生選択にとって大切な土台。10分でいいから毎日必ず新聞の一面に目を通してほしい ◇できるだけ本を読むこと。本は、自分の直接の経験をはるかに越えて経験の幅を広げる。本を読むことに時間を使ってほしい。 ◇自分の意見をきり述べること。これからの世の中、自分の意見を述べなければ生きていけない。他人の意見をよく聞き、同時に自分の意見をきちんと述べる人間をめざしてほしい ◇活動的であること。積極的、活動的、つまり元気にいろんなことにチャレンジしてほしい。学生時代は短い。充実した学生生活をおくってほしい。 ◇卒業研究をおこなうこと。卒業研究は学生時代の最大の事業。これをやらないと大学時代は終わられない。
--

選考方法 基本的に「来る者拒まず」。ただし、「ゼミ運営の主体は学生だ」という意識をもって積極的にゼミで自分の力を発揮しようとする人に来てほしい。選考が必要な場合（志望者が15名程度を超える場合）は個別ガイダンスでの面接による。 3回生時の編入についても同様。
--

評価方法	
研究演習Ⅰ： 日常のゼミ活動とかんたんなレポートで評価する。 研究演習Ⅱ： 日常のゼミ活動と卒業論文をみずえた3回生レポートで評価する。 卒業研究： 卒業論文で評価する。	